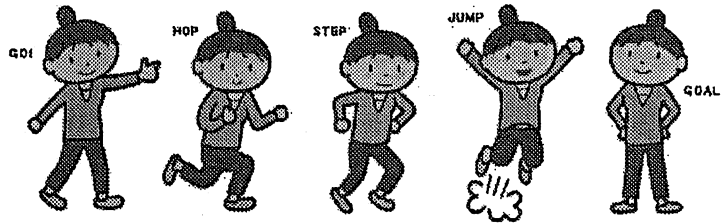


# 東北工業大学 石井先生の授 業を受けて (授業体験)

2年A組学級通信



## Sun Street

2009年 11月 10日 第023号

(通信箋特別号)

### 北欧フィンランドの暮らしと建築

～北欧型社会福祉からみる「豊かさ」の再考～

准教授 石井 敏 先生



北欧のフィンランドについて、言語や文化、社会環境等を通して高齢者福祉を考えるヒントを教えてくださいました。また、日本の、特に介護施設の現状考察から、両国の違い、あるいは両国の「豊かさ」の違いについてとても興味深いお話をいただきました。

講義の中で、空間や建築が持つ「環境」の力は、人間にとってとても大きなものであることがわかりました。「環境」によって人の生きる気力、自立する心、姿や表情まで変わってしまいます。建物、人、そして暮らしを含めた「豊かさ」を考え直すことができたのではないかと思います。

3年生も2名参加した講義のみなさんからの感想を紹介させていただきます。

フィンランドはとても環境や人に対する意識が高く、平和な国だなと思いました。例えば、ベビーカーなどでバスに乗るとき積極的に助けたりすることが普通に行われています。そして自然のありがたさを常に考えているということ。日本はフィンランドを見習っていいことをもっと導入してほしいです。今回は、普段知ることのできないことばかりで、発見がいっぱいありました。家族旅行で一回フィンランドを訪問したい。(2年男子)

90分の講義の要点をよくとらえている感想ばかりでした。お互いに参考にしましょう。

フィンランドの生活は自然を大切にして、子供から大人まで過ごしやすい環境を作っていました。建物も壊さずに新しくし、バック詰めほしないなど、自然と環境を大切にしていました。(2年男子)

これからの将来の中ですべてのお年寄りが普通の生活をするためには、今の状態を変えていかなければならないと思いました。(2年女子)

フィンランドの暮らしについて詳しく知ることができて、実際に住んでみたいと思いました。また、今の介護の状況についても悲しい状況だということがわかってよかったです。将来看護師になったら、一人でも多くの患者さんを助けて、こういう状況を改善できたらいいなと思いました。(2年女子)

フィンランドの人々は、高齢者を一人の人として大切に接しているのだと分かりました。介護施設を普通の家と同じように使えるよう工夫するなど、価値観の違いがあると思いました。人と人が平等で生きていけるように、これから自分の視野を広げていきたいです。(2年男子)

ウラにもまだまだたくさん載せました!

今の日本の課題は「心のバリアフリー」「高齢者施設の充実」だと思います。日本はフィンランドを見習う必要があります。どれだけ物理的なバリアフリーが優れていても、「心のバリアフリー」がだめなようでは意味がないように感じます。自分は、これから日本がよい方向に進んでいくことを願います。(2年男子)

フィンランドと日本の介護の「豊かさ」における違いがとて大きくて、日本の介護問題はかなり深刻なのだと感じました。日本はバリアフリーで物理的な面はフィンランドや他国と比べて非常にレベルが高いですが、お金をかけなくてもできることはたくさんあるはず。お年寄りが安心して暮らせる社会にはまだまだ遠いものがあると思います。少しでも改善していけたらいいなと思いました。(2年女子)

フィンランドという国は、決して豪華なものではないけれども、人々が暮らせるだけの安心感はあるし、ゆとりがあってその人の生活を支えられているのだと思いました。一方日本はただ介護をすればよいと考え、生きる気力さえも失ってしまいかねない環境にあります。同じ地球上でもこんなに価値観が違って介護の状況も厳しいと感じ、すごく悲しい気持ちになりました。フィンランドは、みんなが税金を払う代わりに社会保障が充実していて、人も温かくて親切な人たちが多くてよい国だと思います。(2年女子)

フィンランドと日本の違いは「豊かさ」や「価値観」である。老人ホームを見ても、フィンランドの方は誰が見ても住みたくなるような気持ちになる。自分の家のように使えるため、質の高い生活を送ることができる。普段も化粧をし、きれいな服を着て、女性として堂々と暮らすことができる。「人」が人生の最後を過ごす場所としてどう捉えるかがキーワードになってくると思う。こういうことを考えてあげられると、自分の考えや人の支え方も変わってくるし、「介護」されている側の「人の質」まで変わってくるものだと思う。日本も考え方を少し変えて理解すれば、もっと暮らしやすい環境づくりができるのではないかと感じた。(2年女子)

今日このような話を聞いて日本とフィンランドの違いはかなり大きいと思いました。特に高齢者のための暮らしの環境では、日本の大きな問題(介護施設の見直し)がとて印象深かったです。以前介護施設を訪問したのですが、今日の写真と同様に悲惨でした。今思うと、とても悲しくつらかったのだらうなあと実感して胸が苦しかったです。一人一人安心してより豊かな環境福祉や介護が日本には必要です。(2年女子)

日本とフィンランドの違いに考えさせられる点が多くありました。一人一人の暮らしをよく考えて、これから先も進行していく「高齢化社会」に対応していける設備に充実化が必要であると思いました。大学の講義を先取りして行えた事は自分にとって良い経験をしたと思います。(3年男子)

日本の施設とフィンランドの施設、そして物の見方がそれぞれ違うと強く感じた。今回の講義を受けて、日本はフィンランドやスウェーデンの考えを教育に取り入れるべきだと思います。(2年女子)

介護という意識だけでなく、その人自身を一人の人間として考え、人生の最後の暮らしを考えること、暮らす場としての環境を考えることの大切さを感じました。今日の講義で、私自身の介護に対する考えや生活に対する考えが変わりました。フィンランドの環境では、前から福祉や医療の環境が良いことは知っていましたが、前よりもっと理解することができました。今後もフィンランドの生活環境に注目していきたいと思います。(2年女子)

フィンランドは日本のことを近い存在だと考えているかもしれないけれど、日本とは違って人々の暮らし・環境を第一に考えていて、それが空間・建築、そして人々の考え方に表れていると感じました。経済や物の豊かさなどが日本と比べ劣っていても、「心」が豊かに暮らしていけそうで、フィンランドにとて興味を持ちました。講義はとておもしろく、いろいろと考えさせられたと思います。(2年女子)

フィンランドの建物はすごく暮らしやすそうだなと思いました。老人ホームなどの施設についてはとてびっくりしました。老人ホームに入ってから認知症が進行する人がいること、そしてそれはその建物と環境が原因となりうることを知りました。日本のこれからの課題でもあると思います。今日は講話を聞いて、本当によかったです。(2年女子)

フィンランドのデザインはシンプルで無駄がないのが印象に残りました。私は大学に入学してからもこのような分野を勉強すると思うので、早く大学の授業が体験できてよかったです。私自身、このような分野に非常に興味があるので、今日講義を聞くことができてよかったです。とて勉強になりました。(3年男子)